

タシギとオオジシギの鑑別

海老原美夫（浦和市）

夏の高原でディスプレイフライトをしていれば、オオジシギであることはすぐにわかる。冬の枯れ田でうずくまっていれば、タシギだろう。ところが、この2種が、春と秋の渡りの途中田んぼのあぜに降りていたら、もう分からない。今回は長年の謎であったその鑑別に挑戦。個人的な思いこみと偏見による鑑別講座の第2弾をお送りする。

①次列風切後縁の白線

野外鑑別で役に立つ相違点をかたづけしから並べるとすると、まず言わなければならないのがこれ。日本野鳥の会の『フィールドガイド日本の野鳥』（略称：FG）163ページにも出ている。飛んだ時に翼の後ろ側に白線が見えればタシギ、見えなければそれ以外のジシギという区別だが、これは、飛んでくれないと役に立たない。

②色、大きさ、体型

タシギの方が茶色が強くて、オオジシギの方が比較的白っぽい。タシギよりオオジシギの方がひとまわり大きい。オオジシギの方がよりずんぐりした体型である。

これらの特徴は個体差があって、かならずしも当てはまらない場合が結構あるし、並んでくれないと比較できないこともあるので、決め手にはならないが、最初に「あれは？」と目をつけるきっかけにはなるだろう。

③くちばしの長さや形

これは比較的是っきりできる鑑別点。タシギのくちばしは長くて、頭の1.5倍かそれ以上はありそうな感じがするのに対して、オオジシギのくちばしは比較的短くて、頭の1.5倍はとてもないという感じ。

タシギのくちばしが全体的にほっそりしているのに対し、オオジシギのくちばしの基部ははっきりと太く見える。

④目の前の白い部分の広さ

眉斑からくちばしの基部まで続く白い部分が目の前のあたりで広がっているのがオオジシギ。タシギはあまり広がらない。そのためオオジシギの顔は少し間が抜けて見えると

いう人もいる。ただし、見る角度によって違う印象があるので、要注意。

⑤下肩羽の白い縁どりの違い

これはかなり重要な鑑別点だが、まず下肩羽とは、どこの羽だろう。

写真で丸く囲んでおいたところの羽がそうである。FG 163ページの図で見ると、背中に1本の白線が見え、その下にもう1本の白線がある。その下に接して前から後ろに何枚か並んでいる羽がある。その羽のことだ。

その1枚1枚の白い縁どりが違う。白と言っても、本当はクリーム色に見えるのだが、右ページの図のようにタシギは体の前の方の縁でははっきりしているが、後ろ側ではほとんど見えない。オオジシギは後ろの方が少し細いが、前後とも白縁がみえる。（正確には羽の内弁と外弁という言葉があるが、分かりやすくするため、前側・後ろ側と書く。）

ただし、オオジシギの後ろの白縁も、前の方から見た時には見えにくくて、後ろ斜め方向から見た時の方がはっきり見えることがあるので、これも要注意。

⑥下肩羽の黒い模様の違い

もう一度右ページの下肩羽の図の、今度は黒い模様の形に注目。実際の形はもっとうつと複雑だか、分かりやすく描くと、こんな感じになる。オオジシギの黒い部分は矢尻形に見えるのに対して、タシギの黒い部分はただ黒いかたまりに見える。タシギの黒い部分もよく見ると前縁の白線沿いに細い黒線が続いていることがあるが、矢尻の形には見えない。オオジシギの黒い模様は、2重の矢尻形に見えることもあり、特に太い時は、ハート形に見えることもある。

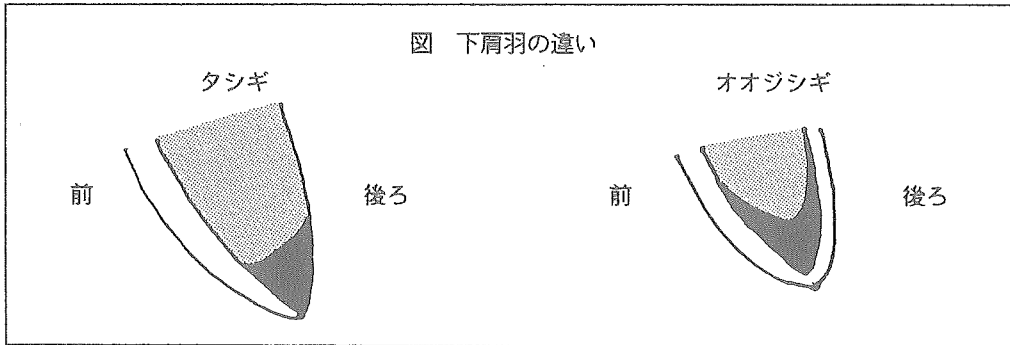
タシギ



オオジシギ



図 下肩羽の違い



⑦下肩羽の大きさと形

タシギの下肩羽は大きく柳葉状に伸びていることがある。その場合は、前縁の白線が体の側面に斜めの平行線に見え、かなり遠くからでも目立つ識別点になる。

オオジシギの下肩羽は比較的小さくて、横にびっちり並んでいる。その為、時には、前縁の白線がつながって体の前から後ろの方に一本の白線に、後ろ縁の白線がそれに直角に立ち並んで見えることがある。

タシギの下肩羽が小さいこともあるが、これは若いせいか生え変わりの途中なのかは分からない。

⑧翼下面の色の違い

タシギの翼下面(下雨覆)は白、オオジシギの翼下面は黒っぽく見える。

私の写したタシギのビデオ映像によると、FG 163ページ左上隅の図より下雨覆は白く見える。

⑨採餌する場所の違い

タシギは腹が水面につきそうな深いところでも採餌するのに対して、オオジシギはあま

り深い水には入らず、タシギより水の少ないところを好む傾向がある。

春と秋の渡りの途中で、地上に降りている時に役立つと思われる識別点を主に書き並べてきたが、実はこれは、今年の秋の渡りのシーズンに神奈川県海老名市の休耕田で私が撮影したビデオ映像を基礎資料にして、元東京支部長の今井宗丸氏、野鳥写真家の浅子明氏をはじめとする多くの人たちからの様々な情報と自分の観察結果を整理したもの。当然間違いや思い違いもあるだろうし、春の渡りの時には、多少違うかもしれない。ご指摘をお待ちして勉強をしたいと思う。更にそれぞれの成若の区別や、ハリオシギやチュウジシギの識別も知りたいが……できるかな。

それにしても、あらためてFGを見直してみると、③④⑤⑥などは見事に描き分けているのに驚いた。亡き高野伸二先生がこの一文を見たら、そんなことは昔から分かっていることだよと、笑われるかもしれない。

(約25分間のビデオにもまとめてあります。商売ではありませんが、ご希望の方、連絡先は支部事務局まで)